令 和 2 年 度

# 伊予市下水道事業決算審査意見書

伊 予 市 監 査 委 員

伊予市監査委員報告第７号
令 和 3 年 8 月 23 日

伊予市長　　武　智　邦　典　　様

伊予市監査委員　森　本　　明

伊予市監査委員　北　橋　豊　作

# 下水道事業決算審査意見の提出について

地方公営企業法第30条第２項の規定により、審査に付された令和２年度伊予市下水道事業決算について審査を終了したので、次のとおり意見を提出します。

# 目　　次

**審査の対象** …… 1

**審査の期間** …… 1

**審査の方法** …… 1

**審査の結果** …… 1

1　業務実績について …… 2

(1) 汚水整備の状況 …… 2

(2) 使用料単価及び汚水処理原価の状況 …… 3

2　予算執行状況について …… 4

(1) 収益的収入及び支出 …… 4

(2) 資本的収入及び支出 …… 5

3　財政状況について …… 6

(1) 財政の概況 …… 8

4　経営状況について …… 10

(1) 経営の概況 …… 11

(2) 経営分析 …… 11

5　む　す　び …… 12

**〔決算審査資料〕**

別表１　総費用内訳表 …… 13

別表２　下水道使用料未収金状況 …… 14

別表３　経営分析表 …… 15

# 下水道事業決算審査意見書

## 審査の対象

令和２年度伊予市下水道事業決算

## 審査の期間

令和３年５月26日から令和３年６月28日まで

## 審査の方法

決算審査に当たっては、提出された決算報告書・財務諸表・決算附属書類が適正に表示され、かつ正確に記録されているか否かについて証拠書類等と照合するとともに、本事業の経営内容を把握するため経営成績並びに財政状態の分析により、経営の本旨とする経済性の発揮及び公共の福祉の増進に努めているか否かを総合的に検討し審査した。

## 審査の結果

審査に付された決算報告書・財務諸表・決算附属書類は、地方公営企業法その他関係法令に準拠して作成されており、かつ決算の計数は正確で、下水道事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

## 1　業務実績について

(1) 汚水整備の状況

| 項目 / 年度 | 供用区域内人口 (A) | 水洗化人口 (B) | 水洗化率 (B)/(A)×100 | 下水管布設延長 (C) | 処理能力 (D) | 最大処理水量 (E) | 1日平均処理水量 (F) | 年間処理水量 (G) | 年間有収水量 (H) | 有収率 (H)/(G)×100 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 人 | 人 | % | km | ㎥ | ㎥ | ㎥ | ㎥ | ㎥ | % |
| H28 | 18,992 | 17,341 | 91.3 | 137 | 12,890 | 5,094 | 4,109 | 1,499,688 | 1,473,612 | 98.3 |
| 29 | 19,031 | 17,715 | 93.1 | 138 | 12,890 | 5,101 | 4,182 | 1,526,366 | 1,477,293 | 96.8 |
| 30 | 18,867 | 17,881 | 94.8 | 138 | 12,890 | 5,876 | 4,220 | 1,540,223 | 1,495,154 | 97.1 |
| R元 | 18,860 | 18,034 | 95.6 | 139 | 12,890 | 5,318 | 4,267 | 1,557,397 | 1,510,949 | 97.0 |
| 2 | 18,865 | 17,928 | 95.0 | 139 | 12,890 | 6,126 | 4,363 | 1,592,590 | 1,546,297 | 97.1 |

令和２年度までの５か年間の汚水整備の状況は、上記のとおりである。

用途別件数・有収水量

公共下水道事業

| 家庭用 | 団体用 | 営業用 | 湯屋用 | 臨時用・特別計算 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 5,713件 | 193件 | 158件 | ２件 | 34件 | 6,100件 |
| 1,172,963㎥ | 68,306㎥ | 96,377㎥ | 32,029㎥ | 103,351㎥ | 1,473,026㎥ |

特定環境保全公共下水道事業

| 一般家庭 | 一般家庭外 | 湯屋用 | 公共施設 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 307件 | 35件 | １件 | 23件 | 366件 |
| 55,140㎥ | 8,346㎥ | 2,141㎥ | 7,644㎥ | 73,271㎥ |

表中の有収水量とは、下水処理場で処理した全汚水量のうち、料金対象となって使用された水量のことで、有収率はその度合いをいう。

近年の夏季の気温は高温を記録しており、令和２年度においても非常に高温であったため年間処理水量は、1,592,590㎥で前年度に比べ35,193㎥（2.3％）増加している。

年間有収水量も、1,546,297㎥で前年度に比べ35,348㎥（2.3％）増加となった。

有収率については97.1％で前年より0.1ポイント増加している。

(2) 使用料単価及び汚水処理原価の状況　　（消費税抜き）

| 年度別 | 使用料単価 | | | 汚水処理原価 | | | 損益 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 下水道使用料 (A) | 有収水量 (B) | 単価 (A)/(B) (C) | 汚水処理費用 (D) | 有収水量 (E) | 原価 (D)/(E) (F) | (C)－(F) |
| R 2 | 千円 235,264 | ㎥ 1,546,297 | 円 152.15 | 千円 653,342 | ㎥ 1,546,297 | 円 422.52 | 円 △270.37 |

使用料単価及び汚水処理原価は、上記のとおりである。

①使用料単価について

下水道使用料は、２億35,264千円で、使用料単価は㎥当たり152.15円である。

②汚水処理費用について

汚水処理費用は、６億53,342千円で、汚水処理原価は㎥当たり422.52円である。

以上の結果、㎥当たりの差損は270.37円となっている。

## 2　予算執行状況について

(1) 収益的収入及び支出

### 収益的収支予算執行状況

(単位：円・%)

| 科目 | | 予算現額 (A) | 決算額 (B) | 構成比率 | 収入率・執行率 | 対予算増減額 収入(B)-(A) 支出(A)-(B) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 収入 | 下水道事業収益 | 840,997,000 | 864,667,262 | 100.0 | 102.8 | 23,670,262 |
| | 営業収益 | 325,509,000 | 343,706,377 | 39.8 | 105.6 | 18,197,377 |
| | 営業外収益 | 515,488,000 | 520,960,885 | 60.2 | 101.1 | 5,472,885 |
| 支出 | 下水道事業費用 | 840,997,000 | 817,949,112 | 100.0 | 97.3 | 23,047,888 |
| | 営業費用 | 713,202,000 | 700,253,786 | 85.6 | 98.2 | 12,948,214 |
| | 営業外費用 | 109,089,000 | 102,900,623 | 12.6 | 94.3 | 6,188,377 |
| | 特別損失 | 17,506,000 | 14,794,703 | 1.8 | 84.5 | 2,711,297 |
| | 予備費 | 1,200,000 | 0 | 0.0 | 0.0 | 1,200,000 |
| 収支差引額 | | 0 | 46,718,150 | － | － | － |

下水道事業収益的収入は、予算現額８億40,997,000円に対し、決算額８億64,667,262円、収入率102.8％である。その主なものは、営業外収益５億20,960,885円（構成比60.2％）である。

下水道事業収益的支出は、予算現額８億40,997,000円に対し、決算額８億17,949,112円、執行率97.3％となっており、その主なものは、営業費用７億253,786円（構成比85.6％）である。

予算額に対する不用額23,047,888円の内12,948,214円は営業費用の減少によるものであり、営業費用は総係費、管渠費、処理場費など全般にわたって予算額を下回った。

(2) 資本的収入及び支出

## 資本的収支予算執行状況

（単位：円・％）

| 科目 | | 予算現額 (A) | 決算額 (B) | 構成比率 | 収入率・執行率 | 対予算増減額 収入(B)-(A) 支出(A)-(B) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 収入 | 資本的収入 | 379,547,000 | 379,747,420 | 100.0 | 100.1 | 200,420 |
| | 企業債 | 58,900,000 | 56,500,000 | 14.9 | 95.9 | △2,400,000 |
| | 出資金 | 311,237,000 | 311,237,000 | 82.0 | 100.0 | 0 |
| | 補助金 | 5,000,000 | 5,000,000 | 1.3 | 100.0 | 0 |
| | 分担金及び負担金 | 4,410,000 | 7,010,420 | 1.8 | 159.0 | 2,600,420 |
| 支出 | 資本的支出 | 600,548,000 | 600,301,623 | 100.0 | 99.9 | 246,377 |
| | 建設改良費 | 37,104,000 | 36,859,250 | 6.1 | 99.3 | 244,750 |
| | 企業債償還金 | 563,444,000 | 563,442,373 | 93.9 | 99.9 | 1,627 |
| 収支差引額 | | △221,001,000 | △220,554,203 | － | － | － |

資本的収入は、予算現額３億79,547,000円に対し、決算額３億79,747,420円、収入率100.1％である。

資本的支出は、予算現額６億548,000円に対し、決算額６億301,623円、執行率99.9％となった。内訳は企業債償還金５億63,442,373円（執行率99.9％）、建設改良費36,859,250円（執行率99.3％）となり予算どおりとなった。

収支の決算で資本的収支において不足する額２億20,554,203円は、当年度分損益勘定留保資金１億92,050,733円及び引継金25,536,630円並びに当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額2,966,840円で補てんされている。

## 3　財政状況について

# 貸　借　対　照　表

| 科　　目 | 令　和　2　年　度 | 構成比率 |
|---|---|---|
| | 円 | % |
| （資産の部） | | |
| 1　固定資産 | 13,836,514,095 | 99.0 |
| (1) 有形固定資産 | 13,836,514,095 | 99.0 |
| 土地 | 1,871,226,568 | 13.4 |
| 建物 | 1,037,346,763 | 7.4 |
| 構築物 | 9,600,196,010 | 68.7 |
| 機械及び装置 | 1,290,196,955 | 9.2 |
| 車輌運搬具 | 61,362 | 0.0 |
| 工具器具及び備品 | 814,437 | 0.0 |
| リース資産 | 36,672,000 | 0.3 |
| 2　流動資産 | 138,247,756 | 1.0 |
| 現金預金 | 91,094,857 | 0.7 |
| 未収金 | 47,617,829 | 0.3 |
| 貸倒引当金 | △464,930 | 0.0 |
| **資産合計** | **13,974,761,851** | **100.0** |

| 科　　目 | 令　和　2　年　度 | 構成比率 |
|---|---|---|
| | 円 | % |
| **（負債の部）** | | |
| 3　固定負債 | 4,315,963,949 | 30.9 |
| (1) 企業債 | 4,283,279,949 | 30.7 |
| (2) 長期リース債務 | 32,384,000 | 0.2 |
| (3) その他固定負債 | 300,000 | 0.0 |
| 4　流動負債 | 610,030,667 | 4.4 |
| (1) 企業債 | 562,970,525 | 4.0 |
| (2) 短期リース債務 | 4,224,000 | 0.0 |
| (3) 未払金 | 33,987,542 | 0.2 |
| (4) 前受金 | 4,997,600 | 0.0 |
| (5) 引当金 | 3,851,000 | 0.0 |
| 5　繰延収益 | 6,103,347,237 | 43.7 |
| (1) 長期前受金 | 6,344,513,967 | 45.4 |
| (2) 収益化累計額 | △241,166,730 | △1.7 |
| **負債合計** | **11,029,341,853** | **78.9** |
| **（資本の部）** | | |
| 6　資本金 | 1,677,422,915 | 12.0 |
| (1) 資本金 | 1,677,422,915 | 12.0 |
| 7　剰余金 | 1,267,997,083 | 9.1 |
| (1) 資本剰余金 | 1,223,054,676 | 8.8 |
| 国県補助金 | 822,000,157 | 5.9 |
| 他会計補助金 | 331,926,119 | 2.4 |
| 受贈財産評価額 | 69,128,400 | 0.5 |
| (2) 利益剰余金 | 44,942,407 | 0.3 |
| 当年度未処分利益剰余金 | 44,942,407 | 0.3 |
| **資本合計** | **2,945,419,998** | **21.1** |
| **負債資本合計** | **13,974,761,851** | **100.0** |

## (1) 財 政 の 概 況

令和２年度の財政状況は、貸借対照表に表示のとおりである。

1　固定資産は、総額138億36,514,095円で構成比率が資産合計の99.0％を占めている。当年度の固定資産は、有形固定資産のみである。主なものは、構築物96億196,010円（構成比率68.7％）、土地18億71,226,568円（構成比率13.4％）である。

2　流動資産は、総額１億38,247,756円で、構成比率は資産合計の1.0％である。
流動資産のうち現金預金は91,094,857円で、資産合計の0.7％である。
・未収金47,617,829円の内訳は

| | |
|---|---|
| 公共下水道使用料 | 43,735,470円 |
| 公共下水道使用料（特例的未収分） | 807,121円 |
| 特定環境保全公共下水道使用料 | 2,223,650円 |
| 特定環境保全公共下水道使用料（特例的未収分） | 56,120円 |
| 下水道事業受益者負担金 | 40,900円 |
| 下水道事業受益者負担金（特例的未収分） | 258,000円 |
| 電柱敷地占有料 | 9,000円 |
| 一般会計補助金 | 139,788円 |
| 区域外流入分担金 | 347,780円 |

資産合計は、139億74,761,851円となっている。

3　固定負債は、総額43億15,963,949円で、構成比率は負債資本合計の30.9％である。主なものは、企業債42億83,279,949円（構成比率30.7％）で、１年以内に返済期限が到来するものを除いた債務である。

4　流動負債は、総額６億10,030,667円で、構成比率は負債資本合計の4.4％である。主なものは企業債５億62,970,525円（構成比率4.0％）で、１年以内に返済期限が到来する債務である。
・未払金33,987,542円の内訳は

| | |
|---|---|
| 水洗便所改造資金利子補給金（令和２年度第４四半期） | 492円 |
| （都下修）第22号下水浄化センター揚水ポンプ（№１）修繕工事代金 | 990,000円 |
| （都下修）第25号下水浄化センター汚泥棟床排水ポンプ修繕工事代金 | 462,000円 |
| ３月分伊予市下水浄化センター汚泥処理及び運搬業務委託料 | 1,267,200円 |
| 起債管理システム保守業務委託料（３月分） | 11,649円 |
| ３月分ガソリン代金 | 8,131円 |
| （都下委）第15号伊予市下水道事業会計アドバイザリ業務委託料 | 1,155,000円 |
| ３月分伊予市下水浄化センター脱水汚泥処分業務委託料 | 426,800円 |
| ３月分伊予市下水浄化センター脱水汚泥運搬業務委託料（その３） | 52,800円 |

| | |
|---|---|
| ３月分後納郵便料金 | 4,059円 |
| 月まとめ料金電信本人払込み（３月分） | 17,730円 |
| ３月分伊予市下水浄化センター脱水汚泥運搬業務委託料（その１） | 123,200円 |
| ３月分伊予市下水浄化センター脱水汚泥運搬業務委託料（その２） | 231,000円 |
| （下公浄委）第１号下水浄化センター包括的施設管理業務委託料（Ｒ２年度） | 8,613,649円 |
| 口座振替手数料（令和２年10月～令和３年３月分） | 106,778円 |
| 令和２年度安広ポンプ場燃料地下タンク等検査委託料 | 55,000円 |
| ３月分電話料金（梢川ポンプ場ほか） | 8,127円 |
| （都下委）第14号安広雨水ポンプ場保守点検業務委託料 | 456,500円 |
| （都下委）第13号大谷雨水ポンプ場保守点検業務委託料 | 492,800円 |
| 令和２年度梢川ポンプ場管理業務委託料 | 4,685,000円 |
| 令和２年度安広・大谷ポンプ場管理業務委託料 | 5,857,000円 |
| 令和２年度梢川排水区下水放流協力費 | 800,000円 |
| 令和２年度大谷・安広排水区下水放流協力費 | 802,000円 |
| ３月分電気料金（梢川ポンプ場ほか） | 642,072円 |
| ３月分中山町浄化センター汚泥処理及び運搬業務委託料 | 92,400円 |
| 下水道事業会計システムデータセンタ利用業務委託料（３月分） | 26,730円 |
| 下水道事業会計システム保守業務委託料（３月分） | 23,551円 |
| （下特委）第１号中山町浄化センター包括的施設管理業務委託料（Ｒ２年度） | 1,155,620円 |
| 口座振替手数料（令和２年10月～令和３年３月分） | 6,354円 |
| 令和２年度消費税及び地方消費税 | 5,413,900円 |

5　繰延収益は、総額61億3,347,237円で構成比率は負債資本合計の43.7％である。

負債合計は、110億29,341,853円で構成比率は負債資本合計の78.9％を占めている。

6　資本金は、総額16億77,422,915円で、構成比率は負債資本合計の12.0％である。

7　剰余金は、総額12億67,997,083円で、構成比率は負債資本合計の9.1％である。
資本剰余金の主なものは、国県補助金８億22,000,157円（構成比率5.9％）である。
利益剰余金は、当年度未処分利益剰余金44,942,407円（構成比率0.3％）である。

資本合計は、29億45,419,998円で、構成比率は負債資本合計の21.1％である。

負債及び資本の合計は、139億74,761,851円となっており資産合計と合致している。

## 4　経営状況について

# 損　益　計　算　書

（消費税抜き）

| 科目 | 令和2年度 |
|---|---|
| | 円 |
| 1　営業収益 | 320,269,264 |
| 下水道使用料 | 235,264,367 |
| 雨水処理負担金 | 84,979,097 |
| その他営業収益 | 25,800 |
| 2　営業費用 | 683,213,817 |
| 管渠費 | 3,736,270 |
| ポンプ場費 | 30,596,319 |
| 処理場費 | 149,203,640 |
| 総係費 | 35,927,481 |
| 減価償却費 | 463,750,107 |
| **営業損失** | **362,944,553** |
| 3　営業外収益 | 520,958,639 |
| 受取利息及び配当金 | 2,158 |
| 他会計補助金 | 278,506,691 |
| 長期前受金戻入 | 241,166,730 |
| 雑収益 | 1,283,060 |
| 4　営業外費用 | 98,283,006 |
| 支払利息及び企業債取扱諸費 | 97,486,723 |
| 雑支出 | 796,283 |
| **経常利益** | **59,731,080** |
| 5　特別損失 | 14,788,673 |
| 過年度損益修正損 | 62,840 |
| その他特別損失 | 14,725,833 |
| **当年度純利益** | 44,942,407 |
| **当年度未処分利益剰余金** | 44,942,407 |

（参考）総収益及び総費用

| | |
|---|---|
| 総収益 | **841,227,903** |
| 総費用 | **796,285,496** |

## (1) 経 営 の 概 況

令和２年度の経営状況は、損益計算書の表示のとおりである。

1　営業収益は、総額３億20,269,264円で、その主なものは下水道使用料２億35,264,367円である。

2　営業費用は、総額６億83,213,817円で、このうち主なものは、減価償却費４億63,750,107円と処理場費１億49,203,640円である。

・営業損失は、３億62,944,553円となった。

3　営業外収益は、総額５億20,958,639円で、他会計補助金、長期前受金戻入や利息等の収入である。

4　営業外費用は、総額98,283,006円で、その主なものは、支払利息及び企業債取扱諸費97,486,723円である。

・経常利益は、59,731,080円となっている。

・その結果、経常利益59,731,080円に特別損失14,788,673円を引いた当年度純利益は44,942,407円となる。

・当年度未処分利益剰余金44,942,407円については、減債積立金に14,942,407円、利益積立金と建設改良積立金にそれぞれ15,000,000円を積み立てる予定である。

## (2) 経 営 分 析

ア　営業収支比率

$$\frac{\text{営業収益（320,269,264円）}}{\text{営業費用（683,213,817円）}} \times 100 = 46.9$$

※　営業活動の効率の度合いを示すもので、その比率は100を超え大きいほど良好とされている。

イ　経常収支比率

$$\frac{\text{営業収益（320,269,264円）＋営業外収益（520,958,639円）}}{\text{営業費用（683,213,817円）＋営業外費用（98,283,006円）}} \times 100 = 107.6$$

※　経常的な収益と費用との度合いを示すもので、その比率は100を超え大きいほど良好とされている。

ウ　総収支比率

$$\frac{\text{総収益（841,227,903円）}}{\text{総費用（796,285,496円）}} \times 100 = 105.6$$

※　標準比率は、100以上であること。

## ５　む　す　び

以上、令和２年度下水道事業会計の決算審査を行った結果の概要である。

審査内容については、計数の正確さはもとより、諸帳簿等関係書類もよく整備されていた。

下水道事業会計は、当年度から地方公営企業法に基づく公営企業会計に移行した。これにより、現金支出を伴わないコストや資産・負債の状況を把握できることになり、経営成績や財政状態をより正確に評価、判断できるほか、経営の透明性も増すこととなった。

当年度の下水道事業は、44,942,407円の純利益を計上しているが、一般会計から84,979,097円の負担金と２億78,506,691円の補助金を繰り入れており、独立採算制を原則とする公営企業としての経営の現況は良好とは言い難く、今後も、企業債の償還や施設老朽化対策及び維持管理に多大な費用負担が必要となる。

また、近年の人口減少や市民の節水意識向上により、有収水量の大幅な増加は見込めない状況であり、厳しい経営状態である。

施設老朽化に対しては、今年度中に策定予定である「下水道ストックマネジメント計画」に基づき、長期的な視点で下水道施設全体を調査・管理することにより、経営の安定化に努めるよう期待する。

今後も、危機管理体制の強化、経営の合理化にも積極的に取り組み、市民サービスの向上や経営基盤強化を図るよう望むものである。

別 表 1

# 総 費 用 内 訳 表

（消費税抜き）

| 区分 | | 令和2年度 金額 | 令和2年度 構成比 |
|---|---|---|---|
| | | 円 | % |
| 人件費 | 給料 | 22,603,800 | 2.8 |
| | 手当等 | 11,498,677 | 1.4 |
| | 法定福利費 | 12,271,215 | 1.5 |
| | 小計 | 46,373,692 | 5.8 |
| 支払利息 | | 97,486,723 | 12.3 |
| 減価償却費 | | 463,750,107 | 58.2 |
| 動力費 | | 5,676,530 | 0.7 |
| 光熱水費 | | 80,238 | 0.0 |
| 通信運搬費 | | 156,940 | 0.0 |
| 修繕費 | | 5,532,000 | 0.7 |
| 材料費 | | 0 | 0.0 |
| 薬品費 | | 0 | 0.0 |
| 路面復旧費 | | 0 | 0.0 |
| 委託料 | | 157,215,372 | 19.8 |
| その他 | | 20,013,894 | 2.5 |
| 合計 | | 796,285,496 | 100.0 |

別 表 2

# 下水道使用料未収金状況

公共下水道使用料　　（単価：円）

| 年度 | 現年度分 | 特例的未収分 | 合計 |
|---|---|---|---|
| R 2 | 43,735,470 | 807,121 | 44,542,591 |

特定環境保全公共下水道使用料

| 年度 | 現年度分 | 特例的未収分 | 合計 |
|---|---|---|---|
| R 2 | 2,223,650 | 56,120 | 2,279,770 |

下水道事業受益者負担金

| 年度 | 現年度分 | 特例的未収分 | 合計 |
|---|---|---|---|
| R 2 | 40,900 | 258,000 | 298,900 |

※　現年度分は３月調定による未収金も含まれる。

別 表 3

# 経　営　分　析　表

| 分析項目 ＼ 年度 | | R 2 | 算式 | 令和2年度基礎金額 | 説明 |
|---|---|---|---|---|---|
| 構成比率（%） | 固定資産構成比率 | 99.01 | 固定資産 / 総資産 × 100 | 13,836,514,095 / 13,974,761,851 | 総資産に対する固定資産の占める割合を示し、事業の財産構成の適正化を判断するもので、比率は小さいほど良好である。 |
| | 自己資本構成比率 | 64.75 | 資本金＋剰余金＋繰延収益 / 負債・資本合計（総資本） × 100 | 9,048,767,235 / 13,974,761,851 | 総資本に対する自己資本の占める割合を示すもので、比率は大きいほど経営の安全性は大である。 |
| 財務比率（%） | 固定比率 | 152.91 | 固定資産 / 資本金＋剰余金＋繰延収益 × 100 | 13,836,514,095 / 9,048,767,235 | 固定資産が自己資本によって賄われるべきであるとする企業財政上の原則から、100%以下が好ましいとされている。 |
| | 流動比率 | 22.66 | 流動資産 / 流動負債 × 100 | 138,247,756 / 610,030,667 | １年以内に現金化できる資産と、支払わなければならない負債とを比較するもので、流動負債の返済能力を示し、比率は高いほど良い。 |
| | 酸性試験比率 | 22.66 | 現金預金＋(未収金－貸倒引当金) / 流動負債 × 100 | 138,247,756 / 610,030,667 | 流動資産のうち、現金預金及び容易に現金化しうる未収金（当座資金）と、流動負債とを対比させたもので、比率は高いほどよい。 |
| | 現金比率 | 14.93 | 現金預金 / 流動負債 × 100 | 91,094,857 / 610,030,667 | 流動負債に対する現金預金の割合を示す比率で、20%以上が理想比率とされている。 |
| 収益率（%） | 総収支比率 | 105.64 | 総収益 / 総費用 × 100 | 841,227,903 / 796,285,496 | 総収益と総費用を対比したものであり、収益と費用の総体的な関連を示すものである。標準比率は100%以上である。 |
| | 営業収支比率 | 46.88 | 営業収益 / 営業費用 × 100 | 320,269,264 / 683,213,817 | 業務活動によってもたらされた営業収益と、それに要した営業費用を対比して、業務活動の能率を示すものである。これによって経済活動の正否が判断される。比率は高いほど良好で、通常100%以上あればよい。 |
| その他（%） | 利子負担率 | 2.01 | 支払利息＋企業債取扱諸費 / 利息を伴う負債 × 100 | 97,486,723 / 4,846,250,474 | 支払利息と企業債などとの割合で、資金調達のための負債に対して支払う支払利息の負担割合を示す。この率が低いほど低廉な資金を使用していることになる。 |
| | 企業債償還額対償還財源比率 | 129.93 | 企業債償還額(元金及び利息) / 減価償却費＋当年度純利益 × 100 | 660,929,096 / 508,692,514 | 当年度企業債償還元金と、その主要償還財源である減価償却費との割合で、企業債償還能力を示す。この比率が低いほど償還能力は高い。 |